

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|----------------|-------------|
| 事業所番号 | 3970700146 | | |
| 法人名 | 医療法人 元勇会 | | |
| 事業所名 | グループホーム わいず | | |
| 所在地 | 高知県四万十市中村大橋通6-7-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年10月5日 | 評価結果 市町村受理日 | 平成24年12月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、市内にあり併設する医療機関を改修しており、狭いスペースではあるが、入居者、家族の思いや一人ひとりの生活リズムを大切に、家庭的な環境作りを心がけている。法人系列の老人保健施設と共に行事を連携したり、散歩や買い物などの場面を通して地域との関わり作りに努めている。また、毎日の計算ドリルや嚙下体操、機能訓練を日課とし、ADLの低下防止、認知症緩和につなげるとともに、医療連携体制も整っており、安心して暮らせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JgvosyoCd=3970700146-00&PrefCd=39&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 高知県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ |
| 訪問調査日 | 平成24年11月9日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには商店、スーパー、公園などがあり、散歩を兼ねて毎日買い物に行ったり、弁当を持参して出掛け、ピクニック気分を味わうことができる環境にある。また、事業所は、母体法人の医療機関に併設されていることから、医療連携体制が充実しており、本人や家族に安心感を与えている。法人が運営する老人保健施設も近くであり、行事を共にすることで利用者が他者と交流できる機会にもなっている。最近では職員の異動も少なくなっており、管理者を中心に職員のチームワークが良く、日課となっている読み書き計算のドリル、嚙下体操などを実施することにより、利用者の身体機能の保持と食べることを大切にされたケアに力を入れている。開設10年目であり、地域の一員として、地域に出向き、地域との交流を深めようとしている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所独自の理念を作成している。職員の心構えなど明文化し意識付けるとともに、特に今職員に必要と思われる目標を掲げている | 自立を大切にし、その人らしい生活が送れるよう支援するという理念に加え、6項目の「職員の心構え」と3項目の「決まりごと」を定めている。更に、「現在の職員の目標」として、『まず「はい」から始める事』を掲げ、日々のケアの中で実践している。ただ、職員会が2~3か月に1回であり、理念について話し合う機会は少ない。 | 職員の心構えの中から選んだ「現在の職員の目標」を実践に繋げていくためにも、職員に意識付けを徹底し、理念に沿ったケアが実践できているかを振り返る機会を多く持つことを期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域活動がなく活動参加はできないが、散歩や買い物時の挨拶、毎日の買い物には利用者と一緒にいき、店員さんと顔なじみになるなどしている | 病院に併設した事業所であり、建物の構造上交流スペースを取りづらく、事業所での地域との交流は難しい。そのような中で、日常的に地域に向き、近隣の人と買い物や散歩の時に顔馴染みになったり、近隣の商店街の七夕まつりに、利用者と共に作った千羽鶴を飾ってもらったりするなど、地域との交流を深めるように努力している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 入居相談時に、必要に応じて家族の認知症への理解を深めてもらうよう説明している | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 状況報告や毎回テーマを決め話し合い、可能なことはすぐに対応しサービスの向上に活かしている | 運営推進会議は2か月に1回開催されるようになり、会議の内容も、評価での課題等を報告し、意見交換を行うなど、会議を活かした取り組みをしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議に参加してもらい事業所の状況を把握してもらうとともに日頃から何かあれば相談するようにしている | 市の担当者及び地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席していることから、日頃から相談しやすい関係が築かれており、何かあれば連絡を取り合い、互いに協力し合える関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員は身体拘束廃止マニュアルを読んで把握するようにし、身体拘束をしないケアを実践している | 職員は何が身体拘束になるかについて理解しており、声掛けなど気になる場面があれば、その都度注意しあい、身体拘束をしないケアの実践に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々、業務の中で行動・言動による虐待が見過ごされないよう虐待防止に努めている | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 必要な場合は、担当関係者と話し合いながら支援するようにしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約や改定などの際は十分な説明を行い、利用者や家族の不安、疑問点を解消し理解と納得を得るようにしている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会はないが、年2回の家族参加の行事の際には、家族だけで話す時間を設けており、そこで出た意見を次回の推進会議で話してもらっている | 花見など家族が参加する行事の際に家族同士で話し合える機会を設けており、行事参加者が増えるよう、ゲームなど行事の内容についても工夫している。家族からの意見や要望があれば対応し、サービスの質の向上につなげている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員ミーティングや申送時、業務中気のついたことなどその都度意見交換している | 日々の支援の中で気の付いたことなどについてミーティングや職員会で話し合い、内容によっては管理者から法人関係者へ相談するなどして、運営に反映させるようにしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々の職員の勤務状況や日頃の業務態度、努力していることなどの把握に努め、働きやすい環境作りの配慮をしている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の配置体制上、回数は多くないができる限り外部研修や院内の勉強会に参加し、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内のグループホーム連絡会に参加し、テーマに沿って勉強したり情報交換、また、管理者・職員同士の交流を通してサービスの向上を図っている | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人との面談を通して、不安なことや要望などを聞き、安心して過ごしていただけるよう信頼関係を築いている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族からこれまでの状況や生活スタイル、要望などを傾聴し、信頼関係を築いている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に利用していたサービス内容について担当ケアマネや相談員から情報を得るとともに、できるだけ本人・家族の意向に沿うよう支援方針を検討している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者と共有できる時間やコミュニケーションを大切にし、買い物や家事、畑仕事などを職員と利用者が一緒に行い、人生の先輩として教わる姿勢を忘れず、共に暮らしていく関係を築いている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 何かあればその都度家族に状態報告し、意見をもらったり、家族で話し合いをもつなどして協力を依頼することもある。共に支えあっていく関係を築いている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親類や友人の面会時には居室でゆっくり時間を過ごしたり、なじみの美容院を利用したりしている | 職員同行で馴染みの美容院を利用したり、懐かしい場所に行きたいという利用者の希望を叶えるためドライブを兼ねて出掛けるなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。また、入居してから馴染みになった商店やスーパーの店員さん等との関係が継続できるよう、日頃の買い物や外出の支援にも努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し、コミュニケーションを図るきっかけ作りや、トラブルを招かないよう職員が関係を取り持つなどの支援をしている | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後もこれまでの関係を大切に、家族等に会った際には声をかけたり、暑中見舞いや年賀状なども送っている。また、家族が花や野菜など持ってきてくれることもある | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりを大切に、日常会話や行動などから希望等把握している。困難な場合は表情や日ごとの行動などから本人本位に検討している | 自分の思いを表せる利用者が多く、日常会話や行動の中から、利用者の意向を把握するようにしている。日課となっている計算ドリルをすることで、昔使っていたソロバンを使えるようになり、生き生きとした表情が戻った利用者があるなど、利用者本位に検討して支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に本人や家族、以前利用していたサービス担当者から生活歴等の情報を収集するとともに入居後も本人や家族等との関わりの中で新しい情報の把握に努めている | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 業務日誌や介護記録、連絡帳、個別ケアの状況などから利用者の心身や能力の現状把握に努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランの実践状況を毎月担当職員が評価し、3ヶ月毎に計画作成担当者がモニタリングし見直している。面会時には近況報告するとともに、家族の意向を聞き、ケアについて質問があった場合は説明し納得を得ている | 家族の面会が多いので、面会時に本人や家族の意向を聞き、担当職員の気づきも踏まえて、介護計画を作成している。状態に変化がある時は随時見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録にケアプランの結果や職員の気づき等を記載し、職員間で共有するとともにケアの実践やケアプランの見直しにつなげている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 母体法人の病院と併設しているメリットを活かし、本人・家族の要望等に柔軟に応じるよう支援している | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 美容院やコンビニエンスストア、スーパーマーケットなどを利用しながら、利用者の豊かな暮らしを支援している | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の意向で併設する協力病院をかかりつけ医としており、定期受診や緊急時対応など職員が通院介助し安心して受診できる環境が整っている。また、他科受診は家族が対応してくれており必要に応じて情報提供も行っている | 本人や家族が希望する医療機関に受診している。協力医療機関以外の受診は家族の協力のもとで通院しており、職員が同行する時もある。受診結果は個別日誌や記録簿に記載し、職員間で情報の共有を図っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日、併設する協力病院の看護師に利用者の体調等について報告したり、相談するなど適切な受診や看護が受けられる体制が整っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は、病院関係者と定期的に情報交換や相談する機会を持ち、病状の把握や退院時期などについて話し合っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に本人、家族に看取りに関する指針について説明し、同意を得ている。併設する協力病院との支援体制も整っており、本人・家族の安心を得ている。利用者が重篤となった場合は改めて家族の意向を確認すると共に、主治医等と方針を共有しながら終末期が迎えられるよう支援している | 看取り介護に関する指針があり、看取りの事例も1例ある。母体法人の医療機関が併設されているので、医療連携が取りやすい環境にある。重度化した場合は、事業所でできる事、出来ない事を勘案し、家族や主治医等で話し合い、個々に対応した支援を行うようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 併設する協力病院の支援体制が整っており、日ごろから助言等をもらっている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、併設する協力病院と合同で防災訓練は実施しているが地域住民の参加はえられていない。避難時の利用者のネームプレートの作成、非常持ち出し用品の準備、災害時の連絡先の確認、食料等の準備をしている | 事業所が病院の2階にあり、防災訓練を病院と合同で実施しているため、年2回実施している訓練に地域住民の参加が得られにくい状況にある。そのため、運営推進会議でも議題にあげ、自主防災組織と協定を結ぶなど、市の防災対策と連携することにより、地域住民の協力が得られるような方策をとれないか、現在検討中である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 日々の場面で注意しあいながら、プライバシーを損ねないよう対応するよう努めている | 職員は、利用者の尊厳を損なうような行動や声掛けをしないように努めている。気になるような言動が日々のケアの中であれば、その場で注意し合い、利用者の人格の尊重とプライバシーの保護に努めている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中での会話やかかわりを大切に、本人から希望等を表出してもらうよう声かけしたり、自己決定できるよう場面づくりをしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの体調や気持ちを大切に、個々のペースでその人らしく暮らしてもらえよう支援している | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望に沿って美容院に行ったり、本人と一緒に衣類などを買いに行くなど身だしなみやおしゃれができるよう支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々に応じた力が発揮できるよう、その日の状態を見て準備や後片付けなど職員がきっかけ作りをしている。野菜や魚などをいただいたときは利用者の意見を聞きながら献立を考えている。職員も一緒に食事をしながら味付けや好みなどを聞いている | 調理の下ごしらえ、下膳、食器洗いなど、利用者のできる事をしてもらい、それぞれの持てる能力を大切に支援を行っている。また、嚥下機能を保つために、食事の前に嚥下体操を行ったり、ドレミの歌の替え歌を歌ったりして、毎日楽しみながら食事ができるように支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本人の状態に合わせて主食、副食の量を調整したりしている。月1回の血液検査をもとに主治医や栄養士から指導を受けている。特に水分量の少ない利用者は1日量をチェックし看護師、主治医に報告し指示をもらっている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個別に口腔ケアを行っている。また、週に1回は洗浄剤で義歯を洗浄したり、うがい用の洗浄液も使用し、口腔内の清潔保持をしている | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居後からはリハビリパンツを使用せず、排泄パターンを把握し、時間誘導や仕草、行動を見ながらトイレでの排泄とするよう支援している | 個々の利用者の排泄パターンをチェック表で把握し、トイレでの排泄を支援している。一部の利用者がパットを使用しているが、全員布パンツを使用しており、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝、起床時にコップ1杯の白湯を飲んでもらったり、日常生活の中で運動を取り入れたり食材の工夫などしている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 利用者の意向を大切に、ほぼ毎日入浴している。入浴を嫌がる場合も、声かけなど工夫しながら入浴できている | 少なくとも2日に1回は入浴できるように支援しており、希望により毎日入浴する利用者もいる。入浴を拒否する利用者には、声かけなどチームで工夫して対応し、入浴が出来るように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調や希望に応じて休憩をしてもらったり、日中の活動を多くするなどして安眠につなげるよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方の内容については、薬内容帳で全職員が確認できるようにしている。変更があれば申送で共有している。必要に応じて看護師や薬剤師に確認しながら支援している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 好きな家事や得意なこと、興味のあることなど利用者の状況に応じた役割を担ってもらったり、レクリエーションなどを通して楽しく過ごしてもらうよう支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毎日の食材買出しに職員と一緒に出かけたり、近所の公園へ散歩やお弁当を持参して行ったりしている。ベランダや畑で野菜を栽培したりして収穫に出かけたりしている。定期的に全員で外食もしている | 近隣の商店やスーパーに散歩がてら出かけるほか、近くの公園へは、車いす利用者も一緒にピクニック気分に出掛けている。すぐ近くにある畑へ行くのも利用者の楽しみの一つであり、季節の花見やドライブなど、行事としての外出も行っている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の了承のもと、小額の小遣いを所持している利用者もいるが、基本的には事業所で預かっている。買い物に出かけた際は自分で支払いをしてもらうよう見守りや支援をしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話の希望があればその都度取り次いだり、プレゼントや手紙が届いた際には写真入のはがきを送付するようにしている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の掃除は欠かさず、特にトイレの清潔保持は入念に行っている。また、行事の写真や季節に応じた飾りつけをするなどして、和やかな雰囲気づくりとなるよう工夫している | 利用者の動線を考えて家具を配置し、居心地よく過ごせる共用空間づくりをしている。家族から貰った菊の花を飾ったり、型抜きで作った紅葉の飾り等を壁面に飾るなど、季節感を採り入れる工夫もしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室や居間、食堂などで利用者それぞれが好きな場所で過ごしたり、バルコニーや階下の談話コーナーなどで過ごせる居場所作り配慮している | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド以外は利用者に持ち込んでもらっている。家具や衣装ケース、机や椅子、家族写真など利用者それぞれ個性のある居室となっている | 使い慣れた筆筒やいすなどを持ち込み、それぞれの家族の写真や机の上に置かれたソロバンなどに、利用者の生活が垣間見られ、本人にとって居心地の良い、その人がそこで暮らしているのが分かる居室作りに努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の立場に立った環境作りに心がけ、安全かつその人にあった生活が送れるよう工夫している | | |

ユニット名:

| V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) | | | | | | | |
|---------------------------|--|-----------------------|----------------|----|---|-----------------------|----------------|
| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの | | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの | | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまにある | | | | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない |